

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH あじさいユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	2019年7月8日	評価結果市町村受理日	2019年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&j_gyosyoCd=2172100832-008&servi_cdCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様同士のもめごと等があった際は職員が間に入り、食堂での席配置も工夫し、より良い人間関係が築いていけるよう心掛けました。居室の中の掃除や、食堂の環境作りにも力を入れました。利用者様が笑顔で過ごしていけるよう声掛けを多く行い、賑やかな空間を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多目的ホールを地域に開放し、自治会の会合や学童保育などに使ってもらっている。夏祭りには地域の人々を招待している。模擬店などが出て賑やかに開催され、300人と多くの地域の人々が参加している。定期的に幼稚園や保育園などから訪問があり、ホームからは園児の運動会に参加している。防災訓練には地域住民、利用者も参加し、自主訓練を含めて全職員が参加し、通報、消火、避難など、いざという時慌てずに確実な誘導ができるよう、年間を通じて繰り返し実施している。職員は利用者の動きを止めないように、その人らしさを大切に、安心して過ごすことができるよう支援し、常に利用者の笑顔が見られるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には 基本指針及び行動指針の唱和を行っており事業目標も目に付きやすい場所に掲げいつでも確認できるようになっている。毎月個々に取り組んでいる	地域密着型サービスとして地域との関係性を重視している。職員は利用者に関わる際、人間性を尊重し、理念をケアに反映させるように努めている。全体会議で話し合っ実践状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長寿の会、地域交流夏祭り、幼稚園・保育園との交流などを通して新たな課題を見つけ提案していく事でしっかりと交流が図れている	多目的ホールを地域に解放して敬老会や学童保育などに使ってもらっている。ホールには遊具を備え自由に遊んでもらうことができています。夏祭りなどを含めて、日常的に地域と活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一階の多目的ホール(カルチャーホール)を終日解放し、どなたも気軽に利用できる環境を整えており介護予防教室や地域の清掃活動を通して認知症に対する理解を深めてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し可能な限り、家族様・地域の方々に参加して頂き困っている事、改善して欲しい事等、意見を出して頂きそれらを職員にフィードバックし解決にむけて随時協議している	運営推進会議を避難訓練と同日に開催することもある。防災訓練にはヘルメットが必要という意見から、利用者にヘルメットを準備した。外部評価の結果を運営推進会議で報告し、その内容を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	可能な限り市町村担当者と連絡を取り合い、悩みや相談を、随時発信して解決にむけた取り組みを行っている	ホームの空き情報や介護時の事故・利用者の受診の情報などを、改善策を含めて市に報告している。市からは、部屋の空きの有無に関する問合せや生活保護の方の受け入れについて相談があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所だけに捉われず施設全体として身体拘束についての勉強会を随時行い、正しく理解し拘束無きよう、居室等の移動も求め、施錠しない環境を作っている	玄関の施錠はしていない。外へ出た時は職員が見守り付き添っている。自宅へ歩いて帰った利用者がおり家族の了解を得てGPS腕時計を付けてもらった例もある。毎月、身体拘束・勉強立案委員会を行ない全体会議へフィードバックして話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の勉強会を通じて虐待について正しく学び、不明外傷の原因究明に取り組む原因解明に力を入れ、その都度、対応策を考え工夫している		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の勉強会を通じて職員全員が学ぶ機会を設け事前に資料を配布してわからない所は勉強会を通じて理解しあえる環境を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険等の見直しが行われた際には、事業所職員が把握すると共に面会時に於いて家族様への説明と理解を求めるよう働きかけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	合同家族会や運営推進会議等の中でざくばらんに意見交換を行い、その中で課題については各職員にフィードバックし解決に向けて議論している	利用者からは日常的に、家族からは面会時などに意見や要望を聞いている。それを管理者と職員が話し合っ運営に反映させている。家族より職員の名前を呼びたいとの希望があり玄関に顔写真を掲示した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な理事長との面談を設け自由に意見や要望を言い合える環境を作っており、ひとつひとつ要望が実践できるよう改善を図っている	年1回理事長との面談がある。普段も管理者と気軽に話すことができ、人間関係の悩みや勤務体制などについて希望や意見を聞いて、運営に反映させている。福祉用具の修理の依頼に随時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の書類を通して自己評価を元に、個々それぞれの能力に応じてベースアップを行いモチベーションに繋げている。悩みある職員には個別で意見を伺い解決に向けた話し合いがもたれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれひとり1人のレベルに合わせた研修に参加できるよう働きかけ、研修後は毎日の全体会議を通して発表する機会を設けフィードバックし共有できるよう活かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設と合同で情報交換できる場を作り、それぞれの施設での悩みなどを持ち寄り、解決に向けた話し合いを行い他施設からの情報も取り入れ、お互いに良い刺激となれるよう働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴が解りやすいシートを使用し、日常の会話や家族の面談時等における、ちょっとした会話をシートに落とし込んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居1か月後にケースカンファレンスを行い、現在の状況や様子を詳しく説明し家族の希望や要望に耳を傾けている。また、家族面会時にも近況報告をし安心して頂けるよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな事がその方にとって最善なのかを検討し相談を行い、できる事を大切にしながらいけるよう自立に向けた支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の得意な事を伸ばしていけるよう、なるべく手を出さないよう見守り、できない所は一緒に行い支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・カンファレンス・お便り等で近況報告をしている。必要に応じて家族様にも協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への受診や行きつけの店等へ行けるよう、家族様に協力を働きかけている。	介護の記録や利用者との会話、家族からの情報から把握をしている。家族に行きつけの店への外出を依頼したり、少人数で馴染みの喫茶店に出掛けたりしている。また、電話や手紙の支援も行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や状況を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう、職員が間に入って支援している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族が困らないよう、いつでも相談して下さいと伝え相談があった場合は、親身になって丁寧に対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の得意な事ややりたい事、楽しみ事を大切に、続けていってもらえるように支援している。	昔やっていたことを話題にし本人が何をしたいか、どのように暮らしたいかを引き出している。意思表示のできない人には、家族と一緒に相談している。表情からも利用者の思いを汲み取り把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣等をアセスメントシートを活用し、把握に努めている。一人一人の習慣を大切に生活していただけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や言動、落ち着かない方への対応等を介護記録に記入し、また、申し送り等で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは家族や後見人に参加して頂き、現状を共有し今後の方針を皆で検討している	毎週担当者がモニタリングを行ない、職員同士で課題を話し合っている。6か月ごとに、本人と家族、ケアマネジャー、職員で会議を開き介護計画を見直している。状態に変化があった時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を介護記録に記録し、また一週間ごとにモニタリング評価を行い、それに基づきケアプランへと反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望や要望に対してできる限り寄り添い、柔軟に対応できるよう取り組んでいる		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等地域の方にも参加していただき、グループホームの事を知ってもらい理解して頂けるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の主治医を持ち家族の協力のもと受診している。必要な事がある時は、手紙にて近況報告をしている	入居前からのかかりつけ医を継続する人が多い。受診は家族送迎が基本であるが、都合が悪い時は職員が付き添う。家族が同行する際には、ホームでの状況を文書にして渡している。結果は家族に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事故等があった場合は速やかに報告し、日々の状態の変化に注意をし、看護師に状態を伝え相談、指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は面会に行き、状況確認をし家族からの情報を得ながら早期退院に向け働きかけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて家族との話し合いの場を作りながら、一番良い方法にたどり着けるよう、また、その人らしい終末期を考慮している。	入居時に、事業所での看取りができることを本人と家族に説明している。重度化や終末期になった時に、かかりつけ医に相談して、家族とも話し合っている。看取りになった段階で協力医に変更し、チームで連携を図り、重度化や終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタルの測定や表情の変化などで異常の早期発見に努めている。スタッフ間では、状況の報告をし会議や事例検討会にて、実際に体験し見直しを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に防災訓練を定期的に行っている。地域の方を交えて防災意識を高めている	避難訓練は夜間想定を含み地域住民、利用者も参加し年2回実施している。他に自主訓練を6回実施し、地震、水害などいざという時確実に避難誘導ができるように繰り返している。非常用食料と備品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての利用者様に同じように声かけするのではなく、一人一人の状況に応じて適した声掛けを心かけている	居室へ入る際は、必ずノックして入っている。排泄時には、利用者の耳元で話しかけ、周りに聞こえないような配慮をしている。居室のドアは本人の希望に応じて、開閉を決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の想いや希望を口にする事が出来ない方もみえるので、表情や日々の行動からスタッフ間で情報を共有し、本人から何をしてほしいのか、さりげなく聞いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人にできる事は自身でして頂き、個々に役割を与えてお互いが助け合えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る物を利用者様と一緒に選び、外出時には、よそ行きの服を着てでかけるよう心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗い、食器拭き等、その方のできる事を分担し無理のないよう手伝って頂いている。本人の好きな物を家族に差し入れしていただき、食べやすい様に配慮している	調理は業者に委託し、ご飯とみそ汁をホームで作っている。できる人に後片付けなどを手伝ってもらっている。職員は見守りや食事介助をしているが、同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう雰囲気づくりがない。	職員が休憩時間を分けて取る方法も考えられる。食卓を囲んで話し合いながら、利用者が楽しく食事できるような体制づくりが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる姿勢や方法、飲み込み具合、形状など、日々観察しながら対応している。むせ込みの無いようトロミをつけたり、水分が摂りやすいよう注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い支援している。自分でできない方は、スポンジブラシ等を使用し支援している		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けて尿意のある方は自身のペースで行って頂き、尿失禁のある方は、排泄の間隔について再度確認をし時間で区切り、定時に誘導の支援を行っている	落ち着きがなかったりソワソワしている人を見かけた時は、早めにトイレへの誘導をしている。夜間は、睡眠を妨げることのないように、状況に応じた排泄介助を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用・ヤクルト・牛乳・軽い運動などを取り入れている。看護師に腹部膨満感、腹部不快感などの確認の支援も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を目安に入ってもらい一人一人のタイミングに合わせている。体調不良の方は、翌日に入れるよう対応。誘い方にも工夫し支援を行っている。	入浴を嫌がる人には毎日でも声をかけ、機嫌の良い日に入ってもらおうようにしている。ユニットバスをゆず風呂にしたり、大浴場で仲の良い人と一緒に入ってもらったりして、楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安否確認の巡回を2時間おきに行い体位交換が必要な方への対応、不要な点灯、声掛けは行わず安眠を妨げないよう支援を行っている。温度・湿度の調整の支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認する事で何を服用されているのかの把握ができています。錠剤から粉末への変更や薬をしっかり飲めたかの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人わかる事、できる事を把握し、その方に合った役割を支援している。レク委員を中心に年間行事を行い笑顔・気分転換となる支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	意向や要望に沿って戸外へでかけられるよう支援を行っている。家族様と出かけられた時の情報を聞きそれを活かす事もできている。	散歩や買物にできる限り時間を取り、ホームの周りを散歩したり近くのスーパーマーケットに出かけたりしている。職員の外出時に利用者にも声をかけ、気分転換に一緒に出かけることもある。年間行事で桜、コスモスなどの花見や初詣などに出かけている。	

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は全て事務所でやっている。必要に応じて自販機などで、ご自分の小銭で買って頂いたり、希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏な時や本人の希望で電話をかけたい時は、かけてもらい、ご家族様に連絡を取るようになっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分では、毎日清掃を行い、行事などによって壁面の飾りなどを替えて季節感を取り入れている。利用者の「暑い」「寒い」の訴えに気付き、過ごしやすい温度・湿度を心がけている。	廊下の壁面に、行事の写真や利用者が書いた習字を飾っている。食堂・居間には臭気やよどみがなく、適温、適湿になるように配慮がいき届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たい方、お部屋で過ごしたい方など、席の配置には気をつけ、その都度、変更を行っている。居室で休みたい方には、時間を決めて休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族様に持ってきて頂いたものを居室に飾ったり写真等を飾り、安心して過ごしていただけるようにしている。	居室に、ぬいぐるみや家族の写真を飾ったり、テレビや空気清浄機を備えたりしている。衣類の収納ケースに利用者が使いやすいように、ラベルを貼るなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	席の配置に工夫をし、立って動かれる方は、人との間をできるだけ広くし、安全に歩行して頂けるよう工夫している。歩行器等の置場を決め見守りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福社会		
事業所名	大東GH なでしこユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	2019年7月8日	評価結果市町村受理日	2019年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&I_gyosyoQ=2172100832-008&Servi_ceQ=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に基本理念や行動指針の唱和を行ったり目の付きやすい場所に貼り、職員全員がわかるよう実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを通して地域の方と繋がりを密にし、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室や地域の清掃活動などで、認知症に対する理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの入居状況や事故の対応などご家族と一緒に運営を考え現状を伝える努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、身元のない方や、生活保護の方の相談を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い拘束の無い支援を行っている。ふいに外へでて行かれる事もあり、見守りや付き添いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不明外傷があったら、皆で原因を話し合って再発防止に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会で分かりやすい資料を用意し理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	大東グループホームの特徴を説明し、それに賛同していただけるかたや、不明点についてはなるべくわかりやすく伝える努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見を出し話し合いをして、早めに改善できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長面談で、自由に意見が言える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の自己評価を元にして、個々の評価をベースアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のレベルに合わせて研修に参加して、フィードバックして次に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員だと参加の機会が中々持てないが、法人のバックグラウンドを使い、同事業のみならず別の事業形態の方とも交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設独自にアレンジされたシートを使用しており、本人の生活史やサービス導入に至った経緯や面談時の事などが書かれており、わかりやすくなっている。不安や要望を聞き、安心できるように関わり、良い関係を築いていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居1ヶ月後にケースカンファレンスを開き、入居後の生活の様子やどのような支援を行っているのかを説明し、不安や要望に耳を傾け、良い関係を構築するよう努めている。面会時には最近の様子を伝え、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に困っている事など聞き、その人にとって、どのような支援が必要なのか、できる事を大切に、自立に向けた支援ができるように相談・検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は継続して行える様に、多少時間がかかっても見守りをしたり、できない事であれば一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の様子を伝えており、最近、一か月の生活状況を「お便り」で知らせ、必要時には、家族様に相談したり協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院へ通院が継続できるよう、家族様の協力を得ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でわからない事があれば教えあったり、お互いを気にかけて、世話をする関係ができています。また孤立しないように、職員が間に入り支援するよう努めています。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様や家族様が困らないよう、いつでも相談して下さいと伝え、対応ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の要望(散歩したい、買い物に行きたい等)があれば、できるだけ要望に沿った対応を行い、楽しみ事が増えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに記載されている生活環境や馴染みの暮らし方を把握する事に努め、今までの習慣や一日の過ごし方等を大切に生活が出来よう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い、体調管理に努め、少しの変化にも早めに気付き、不穏時も長引かないように言動にも注意し、職員同士が現状を把握できるよう申し送りや記録にも記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一週間ごとにモニタリングを行い、ケアのあり方等について職員同士で話し合い意見を反映し、次回の計画の見直し時に、家族様にも参加頂き、現状も含め説明し皆と一緒に話し合いながら今後を検討していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の様子やケアについて「ひやり」等個々の記録に記入し、重要事項は申し送りをする事で、職員同士で情報を共有する。週1回のモニタリングを半年後の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の希望に対して、寄り添える対応をしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に協力してもらい、一緒に体を動かしたり、話したり、歌を唄ったり、地域と繋がりが交流し楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を元に、主治医を持ち、受診・往診している。様子や状態の変化等の伝達をし、医師と連携し家族への説明報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を確認し、状態の変化や普段と違った様子などを看護師に相談し、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、面会に行き、状況・状態を確認し、病院関係者からも話を聞き退院後の支援方法を考え、適切に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の考え・想いを聞き、医療職とも連携し専門家としての助言また、当事業所で可能な支援を説明し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の様子を観察し異常や変化を見ている。一般的な対応の勉強会を行い、利用者様の変化の特徴の把握に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な種類の災害や、昼間・夜間両方を想定した訓練を行ない対応方法を身につけるよう努めている。地域の方々を含め、訓練を行なっている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人と人としてのコミュニケーションを心がけている。入浴や排せつ等、特に羞恥心の強い場面では、尊厳を傷つけないような声掛け、環境作りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る事が難しい方でも、想いを汲み取れるよう話を聞き、ゆっくりと話したり、伝える事に困っている時は、話の内容や様子から伺いながら聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、就寝時間など日々のスケジュールにとられる事なく、栄養状態・清潔保持、体調管理なども考慮しながら、利用者様の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の今まで暮らしてきた中での衣服選びを尊重し、過ごせるよう支援している。理解の難しい方には、家族様からも話を聞き協力してもらって選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の慣れた食生活になるよう提供する事に努めている。周りの方と食事についての話しをしながら、楽しめる場作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が把握できるよう観察し、おやつや食間にティータイムを設けている。嚥下状態も見極め 適切に摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアができるよう支援している。口腔状態の確認また義歯が適切に使用できているかも観察している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた排便や排尿の時間のペースを模索し、水分補給の時間を把握してトイレ誘導や声掛けの支援をすすめている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すように水分補給を多くしたり、個々の飲物を把握、座りっぱなしにならないように適度な運動を促し、それでも排便がみられないようであれば下剤の服用、看護師による腹部マッサージなどを受ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を目安にしているが、入りたい要求には、その都度対応している。体調不良で入浴できなかった時は、体調が安定した時に対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	2時間おきに夜間の見守りをし安全確認を行っている。体位変換の必要な人にはその都度対応。尻の痛みで除圧の為部屋で休んで頂く場合、部屋の温度等に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し何を飲んでいるのか、その副作用は何か等の把握ができています。薬の飲み忘れや手のひらに乗せて落としてしまったりが、無いように確実に飲み込んだのを確認している。自分で飲めない方には、スプーンで口に入れていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外に洗濯物を干しにいたり役割り分担を考え、できる事はやってもらっている。書道教室やレクリエーションで気分転換も図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクで気分転換をしたり、一緒に買い物にでかけ自分で支払いをされたりしている。ご家族様と出かけた時は、車の乗り降りやシートベルトの着用ができたかなどお聞きし、次回に繋げていく。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている。必要に応じて外出し 職員と一緒に買い物し、職員の見守りの中、支払いを自分でされる方もみえる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族と話したい時には、できる限り対応している。不穏にならないよう対処している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は毎日清掃を行い、季節感のある飾り付けをしたり、利用者様の誕生日のイベントの写真も飾っている。温度の切り替えは要望に応じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人、興味の持てる場所を把握しテレビを観る人、話がしたい人、一人でゆっくりしたい人等、思い思いに過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ストレスにならない様、配慮している。本人様や家族様の写真を飾ったり、人形等、好きな物を飾ったり居心地の良い空間を作る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な能力の人達にそれぞれ合わせ、席の配置に工夫し安全に動けるよう配慮している。職員から、利用者様やシルバーカーが目に入るよう、事故の無いよう確認に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東GH すずらんユニット		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地の1		
自己評価作成日	2019年7月8日	評価結果市町村受理日	2019年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&I_gyosyoQ=2172100832-008&Servi_ceQ=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に基本理念や行動指針の唱和を行ったり目の付きやすい場所に貼り、職員全員がわかるよう実践できようしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを通して地域の方と繋がりを密にし交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室や地域の清掃活動などで、認知症に対する理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの入居状況や事故の対応などご家族と一緒に運営を考え、現状を伝える努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、身元のないない方や、生活保護のかたの相談を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふいに外へ出て行かれる事がある為、移動される際には、行動の見守りや付き添いを行っている。言動が身体拘束に繋がらないよう日々、努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不明外傷の原因究明に日頃から取り組み再発の防止に努めている。怪我をさせない介助方法を、皆で検討し改善している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中に組み込まれており、その際には、分かりやすい資料が用意され理解して実践しやすくなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	大東グループホームの特徴を説明し、それに賛同していただけるかたや、不明点についてはなるべくわかりやすく伝える努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や合同家族会や意見箱を通じ、自由な意見を表せる機会を設けている。改善すべき点は、すぐ解決に向けて話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長と面談する機会が定期的であり、素直な意見を伝えられる雰囲気がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の自己評価を参照し、ベースアップや歩合制を導入して評価する事でやりがいに繋がっている人もいようだ。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その職員のレベルに見合った研修を促し、研修後は、発表する機会を設け、現地にフィードバックできるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺施設との情報交換を定期的に行っている。また、合同家族会を開き、改善点や不安に感じている事等を聞き、解決できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の生活歴が解りやすいようにアレンジされたセンター方式の書類があり、何気ない会話の中に、ニーズを落とし込み活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して約1ヶ月後に、ケースカンファレンスを行い生活状況を説明すると共に、疑問点や要望がないかお尋ねして、安心してもらえる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって、何が最善なのかを考え相談を行っている。その人らしい生活が継続できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援が必要な部分は一緒に行ったり、お手伝いさせていただき、できる部分は見守らせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の状況をお知らせする「おたより」をお届けする事で面会時に、より絆が構築しやすくなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気楽に面会に来ていただけるよう、来設時には、積極的に声をかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士を同じテーブルで食事をさせていただいたり、認知症度が似た方同士と一緒にして、話が合うようにしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも相談していただけるよう伝え、対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、一人ひとりのできる事や思いを理解し日々、生活できるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や習慣等を大切にして、できる事を続けていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や言動を記録し、変化に気づき、情報の共有対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を記録しカンファレンスには、家族様にも参加して頂き、現状を共有し、今後の方針を皆で検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をきちんと残し、変化等のあった時には、その都度情報を共有し、対応している。それに基づき、ケアプランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の希望に対し、できる限り柔軟に対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや地域の保育園児達と交流を図っている。またカルチャーホールを自治会や交流の場として利用して頂き、グループホームの雰囲気など感じ取り、理解をしていただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様のフォローバックもありながら、個別の受診・往診を実施している。また 近況報告をして、手紙にて、情報の伝達をかかりつけ医と行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の、日々の状態をよく観察し、何かあれば、看護師に報告・相談をして、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、面会に行き状況確認をしている。また家族様共、コミュニケーションを図り情報を得ている。また、手紙にして入院見舞い・退院祝いを送っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、家族様と十分に話し合いの場を持ち、意向に沿って最良の選択を考慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々、バイタル測定をし、利用者様の異常や早期発見に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に様々な場面を想定して、防災訓練に参加している。また、消防士を呼んで講習を受け、災害対策の意識付けをしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声量を下げ、耳元で声をかけるなど配慮している。相手を尊重して声掛けを心懸けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の想い希望を口に出せない人は、表情などから伺い支援している。同じ目線でゆっくり丁寧に話すよう、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人の人に全てを任せるのではなく、お互いが助け合えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を一緒に選んだり、汚れたら更衣する等、身だしなみには、気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合わせた食事形態で提供したり、食べにくいものは食べやすいサイズに切って提供し、美味しく食べられるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる姿勢や方法、飲み込み具合などが合っているか、日々、観察し対応している。また、食べる悪い人には、補食で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。磨き残しのある方は支援している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自身でトイレに行っていたいただき、残っている能力を活用している。状況に応じてトレーニングパンツや布パンツに対応する。また、トイレに行きたい、トイレでしたいと、本人の想いを尊重した支援方法を考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にヤクルトや牛乳を飲んで頂く。または、体を動かすように声掛けをしている。看護師とも相談し、個々に応じた働きかけをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴を望んでいる利用者様は、本人の意見に沿って対応している。利用者様に合わせて大浴場または、ユニットバスを使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて無理のない生活支援している。早めの静養をするなど、利用者の体調に配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を服用されているのか記録に残し、一人一人が認知している。また、服薬の支援時、飲み忘れが無いか確認している。服用後の症状の変化にも気をつけてみている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や月ごとのイベントに参加、季節感を味わって頂く為に行事食を用意するなど、楽しんでいただく様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に、なるべく応えられるよう、ご家族様にも、協力を得ながら外出支援をしている		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、事務所でやっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話したい時は、できるかぎり家族様へ連絡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は、毎日、清掃を行い、季節に合わせた飾り付けをしている。また、温度管理をして過ごしやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の橋渡しをしたり、やりたいことができるよう、声掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをしたり、定期的な清掃・居室の整頓などを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使う方・歩行器を使う方、それぞれの動線を考慮し、座席や物の配置を工夫し、安全に過ごせるよう見守りを行っている。		